

太田まちづくり市民会議 第3回会議 議事概要

日時	令和5年6月15日(木) 18:30~20:00
場所	太田市役所 本庁舎10階 政策推進会議室
出席	(委員) 中村委員、對比地委員、樋口委員、西村委員 (事務局) 企画政策課：矢羽参事、川田課長補佐、川岸主任、和田主任

1. 開会

2. 協議事項

2.1. 太田市まちづくり基本条例について

会長 今日テーマは防犯や災害、子育てといったように皆さんの生活に身近なテーマが多いと思う。

(第10章 安全で安心して暮らせるまちづくり)

会長 (第10章読み上げ)
身近なところで防犯活動について、何か普段感じることはありますか。

委員 地区によっては盗難等が多いところもあるようだが、自分の周りだとあまりない。

委員 防犯灯をどこに立てるかという話が昔身近にあった。

会長 災害については何か感じていることはありますか。

委員 昔に比べて台風等の災害が激しくなっていると思う。また、台風等を含めた季節全般に言えることだが、様々なものの到来のタイミングが早くなっているように感じる。災害などについては前倒しで対策する必要があるのかと思う。

委員 自分ごと化会議でも防災について話をしたことがある。太田市は比較的災害の影響がないように思っていたが、近年は集中豪雨やゲリラ豪雨の被害もあるので、水の備蓄やモバイルバッテリー等災害に対しての備えは以前に比べて準備するようになった。

会長 そういった災害に対する備えについて、地域で取り組んでいること等ありますか。

委員 地域の人と普段からコミュニケーションを取ることや、自分自身の意識を高めて太田市からの情報を自分から調べたりなどはしている、

会長 自分で意識して実施していることもあるようだが、若い人や周りの市民の人はどうだと思いますか。

委員 防災については「そんなこと起きないだろう」という気持ちの人も多いかと思うが、実際にあった被害のこと等、防災や災害について知る機会があると意識が高まることもあるのかと思う。

会長 実際に災害の被害があった地域は全体的に防災に対する意識が高くなると思うが、そうでない地域の人たちの意識や地域連携についてはまだまだ改善の余地があるように感じた。

(第 11 章 やさしさと思いやりのあるまちづくり)

会長 (第 11 章読み上げ)

子育てと子どもにやさしいまちづくりについて、大学でも人口減少や地方創生について話をする機会があるが、学生たちは群馬できちんと稼げるのかとか子どもを育てられるのかというような不安は漠然と持っていて、職を選ぶ時にも安定志向の人が多い。そういった傾向も踏まえ、子育てや子どもに関することについて皆さんはどう感じますか。

委員 太田市は給食費無料等の事業もやっていて子育てがしやすい環境にあると思う。就職等についてはあまりよくわからないが、確かにうちの子どもも「子供は1人でいいかな」や「安定した仕事に就きたい」と言っているので、安定志向なのかなと感じる。

委員 中学等であれば部活動でなく専門のクラブやスポーツ学校・芸術学校等に通う子も増えたように感じる。今までは部活や地域でやるというのが一般的だった。趣味趣向や価値観の似た人たちが集まったコミュニティのほうが物事はスムーズに進むように思う。

委員 確かに昔に比べてクラブチームのようなものが活発になっているように感じる。その影響として、例えば小学生の頃からクラブでサッカーをやっていた子がたくさんいる学校のサッカー部に、中学からサッカーをやりたいと思って入部する子がいたとすると、技術の差がかなり大きくなるのでそれによって多少の問題が起きるケースもあると聞いた。

会長 子育ての環境も昔に比べて変わってきているということですね。子育ての満足度は太田は高いようだが、障害を持っている方への対応等はどう感じる。

委員 発達障害のお子さんのための学童が最近増えているような気がする。私は子育てに行き詰った人に対する訪問型の支援をしている。自分が子育て中に感じていた困りごとを不安を抱える子育て中の人と共感できる。今の男性は子育てに対して協力的な人が多いと思う。

会長 自分たちくらいの世代は反省しなければいけないかと思う。それ以外に、病名がつかない障害を抱えている人(病院に行けば何らかの病名を付けられるかもしれない人)を地域で支える体制が必要なのではと感じる。そういった人たちが増えているように感じるし、そういう人を地域ぐるみでフォローできる体制ができるといいのかもしれない。

(第12章 環境と共生する豊かなまちづくり)

会長 (第12章読み上げ)
環境問題や最近で言えばSDGs等も話題となっているが、このテーマに関連して何か感じる事はあるか。

委員 あまり思い浮かばない。例えばどんな話があるのでしょうか。

会長 例えば地場産業を活性化しようとしたときに、空き店舗を活用して環境対策のカフェや交流の場を作ったりする若者もいたりする。また、地域の学生と地元企業が連携して環境対策やSDGsの取組を実施するようなケースもある。

委員 館林ではリノベーションまちづくりという取り組みをしている。地域の若者を含めた人たちで、その土地の大切な建物をリノベーションしてカフェとして活用したり、その土地のストーリーを活かしつつ新しいお店の出店をするようなイメージ。まちがとても盛り上がるし、個人的にもとても興味がある分野で、まさに市民参加という印象。

委員 環境と共生というものがあまりイメージできない。

会長 自然を活かした暮らし方といった考え方もいいと思う。太田は自然も豊かで農業も盛んだが、例えば地産地消の観点から地元野菜を積極的に選ぶという感覚はあたりしますか。

委員 農協などに行くと太田の野菜が置いていたりするけど、近くのスーパーだとあまり太田の野菜などは売っていない。スポレク祭のようなイベントに行ったりしたときにはヤマトイモや地元の野菜を買うこともある。

委員 モロヘイヤや藪塚の小玉すいかなど太田市の特産は実はたくさんある。太田市は工業だけでなくそういった自慢できるような野菜や果物があることを意外と知らない人が多いのかもしれない。

委員 最近だと太田でマンゴーを作っていると聞いた。

会長 マンゴーだけでなく最近バナナも作っている。太田は工業だけでなく、実は農業に力を入れている人もたくさんいて、大学でもそういった農家さんと連携した取り組みを実施している。また、モニターツアーとして都内から収穫体験のプログラムなどを企画したりと、そういった強みをどうやって発信していくかということをやっている。私のような県外出身者の視点で見ると太田市にはたくさんの食に関する資源があると思うし、食とフードツーリズムをつなげてアピールできれば太田市の新たな強みになるのではないかと思っている。

(第 13 章 連携と交流)

会長 (第 13 章読み上げ)
広域的な問題を解決するための近隣市町村との連携や、海外や外国人との交流等について、何か日々感じていることはありますか。

委員 バーバンクのような姉妹都市との交換留学生のような取り組みがあることは知っているが、そのほかはちょっと思い浮かばない。

委員 私も具体的なイメージが湧かない。

会長 この辺りは特に意見がなさそうなので次に進みます。

(第 14 章 条例の見直しと検討)

会長 (第 14 章読み上げ)
我々が今やっているこの会議はこの章が根拠になっているが、何か感じることはありますか。

委員 現実的に具体的な部分で変えなければいけない部分はあると思う。地域によつての昔からの習慣のようなもの(言い方は悪いが、昔からいる長老のような人たちの意見が絶対となっているようなケース)をやめることは本当に必要だと思う。そうしないと新たに外から入ってきた若い人たちが地

域に根付かないと思うので、行政又は意欲のある人たちがある程度介入してでも変えていかなければいけない段階に来ているように感じる。

委員 最近だと女性の進出についてよく言われるようになったが、地域の活動や運営についても女性独自の視点といったような部分を活かしていけるといいと思う。男性女性関係なく能力があれば活躍できるようになる必要があるのでは。

会長 従来型の組織はどうしても男性中心になっているように感じるので、地域の組織についても女性や若者の考えを反映できるような仕組みを作る必要があるのではないかと思う。もちろん年齢は関係なくアクションを起こしている人もいるし、高齢だから悪いという意味ではない。女性の力が高齢化するコミュニティの助けになる可能性はある。
今までの意見を見返して、何か気が付いたこと等ありますか。

委員 いろんな立場の人を議論の場（こういった場）に入れることは大事なのかと思う。偏ってしまうのはよくない。年代、性別、文化等多様化しているので色々な立場のが集まることが必要。若い人だとあまり積極的に参加してこないかもしれないが、粘り強く幅広い人を集める努力が必要なのではないか。そしてそこで集めた意見を何かしらに反映させていくことも大切。

委員 太田に住んでいるのに太田のことを知らないで過ごしてきた。子育て中は子育てに手いっぱいだったが、ある程度ひと段落したので色々なことに興味が向くようになった。こういった会議も楽しくできるということが大事だと思う。

会長 子育てがひと段落した人たちがアクティブに活動するようになった時の活躍の場のような場所（コミュニティ？）があるといいのかもしれない。他にも何か言っておきたいことはありますか。

委員 高齢者へのデジタルツールの普及に力入れてもらえるとうれしい。せっかくスマホを持っていても使いこなせていない人も多いと思う。訪問型子育て支援のシニア版のようなものを作ってスマホの使い方を教えるというようなこともアリかもしれない。

会長 親族間で使い方を教える・教わるとなると、何でも言えてしまうからこそ中々うまくいかなかったりと思う。親族ではない第三者だからこそ素直に聞ける部分はあると思う。例えば子育て中のお母さんが子どもを連れて高齢者の家にスマホを教えに行き、そこで若い人が高齢者の人に悩み相談をするような形も考えられるのかと思った。

- 委員 その形であれば自然と各年代のコミュニティ（3世代システム）のような物になりうる。
- 会長 シニアの世代はどんどん増えているので、地域ぐるみでの支援はこれからさらに必要になるだろう。
- 委員 デジタルが苦手なのはどのくらいの世代からなのでしょう。
- 委員 印象としては75歳になるかならないかくらいの年代だと思う。もちろん80代でも使える人もいる。
- 委員 今まで使ってこなかったシニア世代が使えるようになるのはハードルが高いのかと思うが、これからは既に使えている世代がシニア世代に入っていくので全体としては使える人たちがおのずと増えるのではないかと考えられる。
- 会長 デジタルを活用できると高齢者の孤独の問題にも役に立つのではと思う。（テレビ電話等の活用）ここまでで一通り条例については協議ができたと思う。その他何かこの場を借りて話をしたい事はありますか。
- 事務局 今後市民会議をする場合、どのようなテーマについて協議するといいと思うか、何かご意見があればいただきたい。
- 委員 駅前の再開発や図書館建設など、まちづくりについてのテーマがいいのかと思う。南1番街をどう活用するかなど。
- 委員 テーマは今ぱっと思いつかないけど、美術館図書館の時のワークショップのようなものはうらやましく感じた。まちづくりに市民を巻き込む機会を持つことは大事なのは。参加した市民はそのものに愛着を持つと思う。大学が来ることによってまちがどう変わるか？のような学習文化等についてのワークショップは面白いのでは。それに加え、よそ者からの意見をもらうのも面白いと思う。
- 会長 よそ者の人からの意見をもらうと、市民では見えない視点に気づけるかもしれないですね。

3. 閉会